

高橋はじめ通信

NO.19

2024. 夏号

かけはし



■事務所 〒875-0041 臼杵市大字臼杵72番地の47 TEL・FAX 0972-83-5911 E-mail hazime.ast8@gmail.com

— 沖縄県・石垣島に調査に行ってきました —

沖縄の現状と大分の今後について ～沖縄戦から「戦争をする国」に走る今の日本を考える～

【目的】

今回の調査活動は、南西諸島を中心として、自衛隊の配備強化が進む沖縄県の現状について、沖縄本島ならびに石垣島に住んでいる人々に聞き取りを行い、その課題や問題点を整理し、今後の議会活動に役立てようと考えました。

また、沖縄戦に関わる史跡や資料を見学・調査することで過去と現在を結びつけながら、平和と戦争について考えてみました。

5月12日(日)

沖縄空港から車で読谷村へ向かう途中、道の駅「かでな」に立ち寄る。ここは、嘉手納基地が一望に見渡せるデッキがある。日曜日だったので、米軍戦闘機等の発着陸が見られなかったのは残念だった。見渡す限り滑走路という風景に、米軍基地が占める広大な面積を間近に感じることができた。



その後、読谷村役場の「九条の碑」を見学。沖縄戦で米軍の上陸地点となった読谷村では、多くの住民が地上戦で犠牲となった。沖縄では戦後、かつての悲惨な戦争を繰り返すまいと、多くの「九条の碑」が建立されている。読谷村役場に建つこの碑は、1995年10月に行政が設立したことで大きな話題になった。沖縄の人たちの平和への祈りが、この「九条の碑」に込められていることを感じ取ることができた。



続いて、同じ読谷村にある「金城アトリエ」の金城実さんに会いにゆく。金城実さんは、読谷村にある悲劇の「チビチリガマ」の「世代を結ぶ縁和の像」の作者でもある。戦後の沖縄の歴史と現状について、様々なところで発信されている。アポなしで尋ねたが、ちょうどマスコミの取材を受けていたにも関わらず快く迎えてくれた。現在進められている南西諸島の自衛隊基地の強化などについて、厳しい口調で批判されていた。地元沖縄の人

たちの怒りと苦悩を強く感じられた。直接お会いすることで、一層その思いを強く受け止めることができた。



5月13日(月)

2日目は、「対馬丸記念館」の見学からスタート。疎開しようとして米軍の潜水艦の魚雷で沈没した対馬丸。対馬丸に乗船していた疎開学童・引率教員・一般疎開者・兵員ら1,788人のうち、疎開学童784人を含む1,484人が死亡した(2018年8月22日現在氏名判明分)。記念館では生存者の声を記録した動画も放映され、当時の戦争の悲惨さを伝えていた。子どもたちが犠牲になる戦争は絶対に起こしてはならないと改めて誓う。



続いて、豊見城市にある旧海軍司令部壕(海軍壕公園)に向かう。1944(昭和19)年日本海軍設営隊(山根部隊)によって掘られた司令部壕で、当時は450mあったと言わ



れ、カマボコ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと杭木で固め、米軍の艦砲射撃に耐え、持久戦を続けるための地下陣地で、当時約4000人の兵員が収容されていた。戦後しばらく放置されていたが、数回に渡る遺骨収集の後、1970(昭和45)年3月に観光開発事業団によって司令官室を中心に300mが復元され、現在公開されている。話を聞き写真なども見ながら、過酷な当時の状況やそれでも戦争を続けた日本軍部の無謀な作戦が、多くの犠牲者を生んでしまったことが悔やまれてならなかった。



その後、金城龍太郎さんのご自宅を訪問。金城龍太郎さんは、石垣島で農場を営んでいる。訪問早々にマンゴー農園を見せていただいた。広大な農園に手塩にかけたマンゴーたちがたわわに実っていた。



金城さんは、陸上自衛隊の石垣島への配備を巡り、市民が計画への賛否を示す機会を設けようと、2018年から住民投票の実施に向けて奔走し続けている。市民の意思を示す機会が必要だとして「住民投票を求める会」を発足し、署名活動など市議会へ働きかけたが、市議会は条例案を否決。南西地域の防衛体制の強化が進められる中、陸上自衛隊の石垣駐屯地が2023年3月16日に開設された。金城さんは、有権者の4分の1を超えた場合、市長へ住民投票の実施を請求できるとした条例を根拠に市を相手取る裁判を起こした。裁判は最高裁まで続いたが、2021年の8月に訴えは退けられ敗訴が確定した。

金城さんは現在、別の裁判を起こして、住民投票の実施を求めて再び市と法廷で争っている。金城さんは、「行政の計画を支持する人だけが住民ではない。住民の中でも反対する人もいる。可能性がある限りは続けていきたい」と語っていた。「自分が住んでいるすぐそばに自衛隊の基地ができて、初めて自分ごととして感じるようになった。もし、別の場所だったら何も思わなかっただろう」との言葉が、自分の気持ちと重なる。大分市にもミサイル弾薬庫が建設されるようになって、初めて自分のこととして感じている自分がある。安全保障の名の下に、当事者であるはずの住民が議論から置き去りにされ、意思を示す機会も与えられていない現状を強く感じている。自分にも何かできることはないか、考えさせられた調査だった。

5月14日(火)

3日目は、石垣島へ。新栄公園の「九条の碑」と八重山平和祈念館へ出向き聞き取り調査。八重山平和祈念館では、当時の住民たちが日本軍の命令により、マラリア有病地へ強制的に追いやられ、多くがマラリアに感染し、命を落とした事実を若い学芸員の方が説明してくれた。こちらの質問にも的確に答えてくれて、平和を伝える若い世代がここでは育っていることが嬉しくもあり羨ましくもあった。



【調査を終えて】

大分市の敷戸に弾薬庫が設置され、日出生台においても日米の共同訓練が恒常化されようとしています。そのほか、民間空港を使った自衛隊戦闘機の離発着訓練や湯布院駐屯地へのミサイル部隊の配置など、戦前を感じさせるような動きがこの大分県内でも激しくなっているように思えます。沖縄県を含む南西諸島地域での自衛隊の配備とそこで暮らす地域住民の思いはどのようなものか。それらの一端を調査する中で、今後の私たち大分県民のとるべき行動が見えてくるのではないかとこの思いから、今回の聞き取り調査を行ってみました。

大きな成果と言えるようなものは現時点ではありませんが、「防衛」という名のもとにそこに住む住民の願いや気持ちが無視されたり、踏みにじられたりしている現状が見えてきました。過去の沖縄戦の事実と重ね合わせながら、沖縄を南西諸島を、そして大分を含む九州を、決して戦場としてはならないという思いを強くしました。平和問題については、今後も県議会の場で続けて取り上げていきたいテーマであります。

2024年第2回定例県議会の報告

— 要介護認定業務のデジタル化に必要な経費など11議案ならびに報告1つが可決 —

2024年第2回定例会が6月13日から28日までの16日間の会期で開会されました。2024(令和6)年度の一般会計補正予算1億7,181万4千円をはじめとした執行部提出の議案すべてが可決成立しました。

その他、人事案件として新たに副知事に桑田龍太郎さんが、教育委員として岩武茂代さんが再任されました。



<一般会計補正予算について>

○要介護認定業務等デジタル化推進事業

.....1億7,181万4千円

大分市、別府市と共同して、要介護認定の一連の業務のデジタル化に取り組み、高齢化の進行に伴い増加が見込まれる認定業務の迅速化と効率化を図る。



義務教育費国庫負担制度堅持の意見書は採択

今回は、県民クラブのみ議員提出議案として5本の意見書を提出しました。結果は下記のとおりです。

また今回、福祉保健生活環境委員会から「地方消費者行政に対する財政支援(交付金等)の継続・拡充を求める意見書」が退出され、全会一致で可決されました。

●「義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書」

.....可決

●「地方財政の充実・強化を求める意見書」可決

◆「2024年度大分県最低賃金の

改定等に関する意見書」

◆「医薬品や医療機器の安定供給確保及び

イノベーション推進を求める意見書」

◆「実効性ある抜本的なカスタマーハラスメント対策を求める意見書」

.....いずれも否決

今年、文教警察委員会に所属

24年度は久しぶりに文教警察委員会に戻ってきました。県も山田雅文教育長にかわりまして、現場の様々な課題や困りなどを訴えていきたいと思えます。特殊詐欺の増加など警察行政も厳しい状況にあります。県民の安全・安心のためにもどうすればいいか、取り組んでまいります。

文教警察委員

(◎委員長 ○副委員長)

◎大友栄二(自民)

○太田正美(自民)

阿部英仁(自民)

首藤健二郎(自民)

高橋 肇(県民)

木田 昇(県民)

猿渡久子(共産)



県民クラブが高校のあり方を考える研究会を立ち上げ

2008年度から全県一区となった大分県の通学区制度。16年が経過し、大分市内の高校へ希望者が集中し、周辺の県立高校への進学希望者が年々減少。定員割れが続く高校も増えています。

2024年第1回定例会では、自民党県議からも「地域の高校が衰退すれば、最終的に生徒が県外に流出する懸念がある。全県一区制度を検証し対策を講ずべき」との質問も出されました。また、他の保守系議員からも「全県一区入試制度は若者委の地元定着の取り組みと逆行」と指摘されています。

県民クラブも、将来を見据え高校教育を取り巻く様々な課題について調査・研究し、めざすべき高校についてまとめ、会派として次回の9月の第3回定例会において、提言・提案しようと研究会を立ち上げました。

時間的にはたいへん厳しいものがありますが、関係の教職員組合や他県の高校の状況などを調査しながら、これからの大分県の高校教育のあり方について考えをまとめていきます。人口減少が進む中で、「子どもの数が減っていく中、地域における人材の確保と育成のために、いかに地域の高校を守っていくか」が、今問われています。

(研究会メンバー)

◎原田孝司 ○吉村尚久 高橋肇 若山雅敏 木田昇 玉田輝義 (◎代表 ○事務局)



4月

- 17日 全国政策担当者・自治体議員WEB会議
- 18日 野津町県道のカーブミラー設置の調査(野津町前河内)
- 22日 農林水産委員会・土木建築委員会委員外参加
- 24日 政策検討協議会(議会運営委員会室)

5月

- 1日 文教警察委員会
- 3日 憲法記念日講演会(県教育会館)
- 7日 文教警察委員会県内所管事務調査(東部へ)
- 8日 土木建築委員会に地元県議として参加(臼杵市・津久見市)
- 12日~14日 沖縄県自主調査(那覇市・読谷村・石垣市)
- 16日~17日 文教警察委員会県内所管事務調査(豊肥・南部へ)
- 21日 文教警察委員会県内所管事務調査(中部へ)
- 24日 県政連県議団会議にて意見交換(県教育会館)
- 29日~30日 文教警察委員会県内所管事務調査(北部・西部にて)



県内所管事務調査の様子

6月

- 6日 第2回定例会議案説明会(県民クラブ)
- 10日 連合大分「政策制度委員会議員懇談会」にて意見交換(県民クラブ)
- 13日~28日 第2回県議会定例会(本会議場)
- 13日~14日 部落解放・人感西日本夏期講座(別府ビーコンプラザ)
- 27日 民主教育を進める県民会議幹事会にて意見交換(県教育会館)
県民クラブ・高校のあり方を考える研究会で意見交換(県教育会館)
- 30日 立憲民主党2区総支部事務所開所式(佐伯市)

たけやま



▼「カーブミラーを設置してほしい」との要請がありました。さっそく野津町の現地へ調査に行ってみると、個人宅の路地から県道へ出る道で、隣の家が視界を遮るため、やってくる車がほとんど見えないうような状況でした▼このお宅にはお年寄りご夫妻がお住みでしたが、近々お孫さんが引っ越ししてくるそうです。ご夫妻はもう慣れています。引越してこられるお孫さんが、道に飛び出すと危険なのでカーブミラーを設置してほしいと。▼臼杵土木事務所にご相談すると、親身になって話を聞いてくれて現地にも足を運んでいただきました。が、残念ながら「設置はできない」という回答。一個人のために設置をするには、高いハードルがあるようです。土木事務所も精一杯検討してくれましたが、私は解決できなかったことに申し訳ない気持ちでいっぱいでした▼その後カーブミラーを調達して個人で設置したようで、先日見に行くと立派なミラーが立っていました。地域のみならずの安心・安全を守るため、これからも努力していきます。

ホームページにご意見、ご要望などお寄せください

最新の議会情報に会報「かけはし」や様々な調査等々、掲載しています。皆様からのご意見やご要望なども受け付けています。よろしくお願いたします。

【ホームページアドレス】

<https://hajime-takahashi.jp/>

QRコードはこちら↓



【県民クラブHPはこちら】

※セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

<https://kenmin-club.com/>

QRコードはこちら→

